

# 大山町・嘉手納町人材育成交流事業

## 今後もこの交流大切に

合併前の大山町と沖縄県嘉手納町が、ともに国体のソフトボール会場になったことが縁で毎年交互に訪問しているこの交流事業も、今年は20回目という記念の年を迎えました。



中山小オリジナルクイズを楽しみました

節目となる今回は、嘉手納町の真喜屋清教育長が児童16人（小学5年生）、引率者3人の交流団に同行して表敬訪問され、今後もこの交流事業を大切にしていけることを確認し合う好機になりました。

この交流事業は、18年夏の嘉手納町訪問団から、参加者を町内全体から募って事業を行っています。嘉手納町の児童たちは、1月29日から2月1日までの3泊4日の日程で、町内小学5年生児童の8家庭にホームステイしながら、スキー体験や学校訪問を通して本町児童らと交流を深めました。



「たばこする」ってどういうこと？



「これでどうかな？」



スキーは楽し！

### ■あいさつ交わして 交流スタート

29日昼前に那覇空港を出発した嘉手納町交流団は、午後5時過ぎに大山町公民館に到着。関係者の歓迎を受けて民泊家庭の児童、保護者と対面しました。お互いにドキドキ、わくわく。少し緊張しながらあいさつを交わして、相手の様子を気遣いながら、さあ交流のスタートです。

翌日は朝から寒い日になりました。嘉手納町の児童たちは、到着の夜、民泊家庭で防寒対策をしてもらって感動しました。冷房はあっても、暖房は初めての体験です。まず仁王堂公園の高さ約9メートルのガラス天狗像の前で、気温2〜3度の空気の感触とともに記念撮影。そのあと、高田工業団地のファミリー（株）で、マツサージチェアの製造工程などの説明を受けながら工場見学をしました。

学校訪問では中山小学校を訪問。全校あげての拍手のなか体育館に入場するという盛大な歓迎を受け、踊り慣れた沖縄伝統舞踊の「エイサー」をみごとにメドレー曲にあわせて披露しました。嘉手納町の児童たちから

スキー交流昼食の時間も話はずんでなごやかに



は「拍手のなか入場する歓迎にびっくり」「金管バンドの演奏がすごく上手でした」「方言や地元の特徴などをオリジナルでクイズにした交流会は、とても面白かったです」との感想が寄せられ、お互いの気持ちの通い合う良い交流になりました。

翌日は嘉手納町の児童たちが待ちに待ったスキー交流。疲れも寒さも吹き飛び、吹雪の中もなんのその。指導員から歩き方や滑り方を教わりながら、民泊家庭の児童とともに初体験のスキーを楽しみました。